

令和 3 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1671800280
法人名	医療法人社団 明寿会
事業所名	グループホーム あっとほーむ婦中
所在地	富山県富山市婦中町中名1077-7
自己評価作成日	令和3年9月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者が地域行事等への参加や外出することが難しくなっているため、住民の方々にボランティア講師として、サークル活動に来所していただくことで地域との繋がりを持てるようにしています。しかし、コロナ禍でボランティアの方に来所して頂くことも難しい状況ではありますが、手紙のやり取りなどを行って関係が途切れないようにしています。

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページ等で閲覧してください。

基本情報リンク先

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人 富山県介護福祉士会		
所在地	939-8084 富山県富山市西中野町1丁目1-18 オフィス西中野ビル 1 階		
訪問調査日	令和3年10月15日	評価結果市町村受理日	令和3年11月24日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

職員同士がお互いに配慮し、支え合い、何でも話し合える働きやすい環境であり、そして、笑顔で働ける環境が利用者の穏やかな日常につながり、理念に沿ったケアが実践されている。同一法人の全施設間でシステムを導入し、利用者の医療における相談や職員間の情報伝達及び共有、研修の開催などの円滑な運営に活用し、安定した支援につながっている。また、利用者のできることをみつけ、家族と協力し、外出や外泊などの活動を増やし、自分らしく過ごすことができる施設を目指している。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。									
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：23, 24, 25）	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 （参考項目：9, 10, 19）	○	1. ほぼ全ての家族と		
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと		
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと		
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない		
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：18, 38）	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 20）	○	1. ほぼ毎日のように		
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度ある		
			3. たまにある				3. たまに		
			4. ほとんどない				4. ほとんどない		
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	1. 大いに増えている		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない		
			4. ほとんどいない				4. 全くいない		
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36, 37）	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている。 （参考項目：11, 12）	○	1. ほぼ全ての職員が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：30, 31）	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての家族等が		
			2. 利用者の2/3くらいが						
			3. 利用者の1/3くらいが						
			4. ほとんどいない						

1 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念についての勉強会を行い、事業所理念をスタッフ全員で考えました。「私たちは、利用者の人権を尊重し、安心して自分らしく過ごせるように支援します」という理念を掲げ実践に繋げています。	理念を職員全員で見直し、現在の事業所にあった新しいものを作成した。施設内に掲示し、2ヶ月に1回、理念に沿った内容の勉強会を行い、共有、実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で、ボランティア活動を行っている方々に施設に来て頂いていましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で実施できない状況が続いています。	新型コロナウイルス感染拡大のため、活動を自粛しているが、以前に来ていただいたボランティアの方々には手紙を出し交流を継続している。自治会に入っているが、地域の行事や活動も中止が続く参加できていない。	自治会、消防団、地域住民との交流機会の工夫や広報誌を回覧し事業所を知ってもらうなど、地域とのつながりを作る取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は「いきいきサロン」活動のお手伝いを行っていましたが、新型コロナウイルス拡大の影響で地域に出て行くことも出来ない状況が続いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染拡大の為、書面でのみの開催となっています。	2ヶ月に1回開催していたが、現在は書面での対応となっている。11月より再開する予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員の方の訪問を再開する予定です。	介護相談員の訪問再開や地域ケア会議にも参加する予定である。市町村担当者とは法人本部を通じメールで連絡している。新型コロナワクチン接種の調整もスムーズに行うことができた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内で「身体拘束」についての勉強会を年に1回以上行っています。また、法人内での「身体拘束適正化委員会」に参加しています。今年度は、スピーチロックについての取り組みを行っています。	法人内の委員会に参加し、参加した職員が事業所内のミーティングやカンファレンス等で報告している。委員会の取り組みについてはメールでの情報交換やシステム内の会議録を活用し、情報を共有している。勉強会を行い、今年度はスピーチロックを行わない支援をすすめている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い、日常的に意識してケアをする様に取り組んでいます。職員同士も意識して言葉使いなどにも注意しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に利用されている方がいないので、運用方法などは、ほとんど分かっていません。今後は、制度について学ぶ機会を持つことが必要かと思えます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は、管理者が行っています。説明に時間をかけ利用者やご家族様の不安や疑問にお答えしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の意見要望は記録に残して職員間で共有しています。広報誌などでも日々の生活の様子を紹介しています。	家族に一人ひとりの写真を載せた生活状況の報告書を3ヶ月に1回送っている。窓越し面会や電話連絡、日々の関わりの中から意見を聞き取り、療養棟日誌に記録して情報を共有し、運営やケアにつなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンスには管理者が出席し、職員の要望や質問に答えています。年度末には個別に面談し、法人への意見などを伝える機会を設けている。社内メールによる法人代表者への個別の質問や提案にも対応するシステムがある。	同一法人のシステムにより、本部、管理者、上司、担当者に直接メールを送ることができ、個別の相談やトラブルなどでも迅速に対応できる。年度末に行う面談も意見や提案を聞き取る機会としている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度末には、上司との個別面談があり、就業内容や時間などについて話し合うことができます。各々が就業時間を守るように管理者や各職員が環境作りに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内でも、様々な研修を行っており、職員は、参加することができます。外部の研修に関しても、その都度案内があり、上司から受講を勧められます。現在は、コロナ禍で研修は少なくなっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	富山県内の介護福祉士会や認知症グループホーム協議会に加入し、相互の情報交換はスムーズに行われています。現在は訪問などが自粛されている状態です。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前情報による知識をもとに、本人と職員が話をすることで信頼関係を築いています。本人の希望や困っている事も安心して話すことができる様に配慮しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人及び家族と入居前、入居後と話をする機会を設け、不安なことや要望に耳を傾け、解決・改善を行い、信頼関係を築く努力をしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャーや管理者が中心となり、本人や家族から伺った話から、必要なサービスの提案をさせて頂き、了解を得られた上で、他職種と連携しながら実施するように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意思や希望を尊重し、残存機能を生かすことができる生活を送ることを職員も共に生活しながら実践している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話連絡や生活状況表で、本人の様子を家族に伝えている。面会や、家族との外出の機会を作って頂ける働きかけを行っている。本人と家族との絆を大切に努力をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力を得ながら馴染みの人や場所と関係が途切れないように支援に努めています。新型コロナウイルスの影響で外出が出来ない現状です。	窓越し面会を再開、中止期間中も積極的にオンライン面会をすすめていた。家族からの電話も利用者と話をする機会とし、コロナ禍でできる支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が良好な関係にあるように座席や活動の際の並びに配慮しています。レクリエーションや普段の生活の中で利用者同士が関わり合い、支え合いがスムーズに行えるように支援に努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了すると関係が途切れてしまうことがほとんどですが、必要に応じて相談や支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	施設の流れや、やり方を優先させず、可能な限り、利用者個々の意向やペースに合わせた生活が出来るように努めています。1つ1つの動作や作業に対しても同意を得て行っています。	日々の関わりの中から利用者の思いを聞き取り、療養棟日誌に記録し職員間での共有、把握に努めている。朝の申し送りの際やカンファレンスで検討し、一人ひとりの思いに沿った支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に基本情報に目を通しこれまでの暮らしを把握したうえで、支援を行うように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人が望む過ごし方が出来るように、活動の参加の有無を確認しています。また、気になる点や新たな発見は、記録に残し、情報を共有、ケアに活かせるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスで話し合い、より本人らしい生活が出来るように、家族や本人の意見も聞きながら介護計画を作成しています。	各利用者の担当職員が、日々の関わりや日誌から情報を集めカンファレンスで3か月に1回検討している。システム内の個人ファイルから介護計画やモニタリングの情報を確認することができ、情報の共有や実践につなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	詳細に記録を残すようにし、業務日誌、申し送り、メールで情報を共有するようにしています。改善点や問題点についてその都度話し合い、情報共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生活という視点に対し、柔軟に捉えることによって、これまで生きてきた本人の背景や、これからどう生きたいか家族の現状等に配慮してその時々で柔軟に対応できるようにしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設周辺での馴染みの安全なコースの散歩や施設周辺の行事などをキャッチできるように、地域包括支援センターと連携していますが、新型コロナウイルスの影響にて行事の参加は控えています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回～3回の法人の医師の往診と月2回の法人の看護師による訪問看護を行っております。又、必要に応じて家族付き添いにてかかりつけ医の受診を行っています。	入居時にかかりつけ医を確認、希望や病状に応じて受診することができる。法人医師の場合は事前にメールで情報を伝え、診察内容を電子カルテで確認、情報を共有し円滑に連携することができる。	外部医療機関との連携を円滑にするため、情報提供の書式等を作成して活用するなど、連携強化の仕組み作りに期待したい。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月に2回の法人の看護師による訪問看護に加え、電話連絡にて常時、相談が出来るようになっている。また必要に応じて受診の付き添いを行い、適切な医療を受けることができるようになっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院が出来るように、入院時から情報共有を行い、入院中も情報共有をして、病院との関係作りに努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期については、入院時や常に医療が必要になった場合、経口からの食事が困難になってきた場合等、状態の変化があった時に話し合いを行っています。関係者を含めて、利用者や家族の意向を確認しています。	入居時に重度化や終末期について口頭で説明している。経口摂取が困難になった場合等は、家族が法人医師に直接相談することもでき、状態に応じて意向を確認し対応を検討している。	家族が重度化や終末期について具体的に理解できるよう書面等で示し、説明されることに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、外部講師を招いて「救命講習」についての勉強会を開催していますが、新型コロナウイルス感染防止の為、外部講師を招いての勉強会は実施できていません。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を実施しています。特に新人職員が参加できるようにしております。全員が機器の対応ができるようにしています。又、布団を使い、階段を降りる方法等、階段の使用が困難な方への対応も身につけております。	防災マニュアルを作成し職員間で周知している。年2回消防訓練を実施し、2階からの避難方法の訓練も行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護を心掛けており、職員は、フロアで個人情報を話さない様にしています。又、個人情報が記載されている書類が人目に付かない様に管理・保管に努めています。人格を尊重した声掛けや対応を行っています。	利用者が生活するフロアなどで個人情報を話さないというルールを作り、職員同士で声を掛け合い徹底している。接遇に関する勉強会を行い、環境の整備、声の掛け方、排泄及び入浴時の対応に配慮している。	利用者が同じ苗字のため下の名前で呼ぶ際等について、事前に家族に説明を行うなど周囲の理解が得られる手順に期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけしている	職員は、必ず日常生活において、本人の自立支援、自己決定を尊重した声掛け、対応を行っています。また応えにくい場合は、分かりやすく説明ができるように工夫をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合を優先せず利用者個々のペースに合わせるようにしています。レクリエーションの参加、家事の洗濯物干し、畳やテーブル拭きなどは、本人に確認をしながら行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理髪などは、本人の意向を聞きながら髪を切って頂いています。入浴時などで本人が選んだ衣服を着て頂いています。女性利用者だけなので、女性スタッフと一緒に楽しみながらその人に合った支援を行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみになるように食事のメニューを事前にホワイトボードに記入し利用者様に見えるよう掲示しています。宅配で送られた食事を温めて提供しており、食事の準備、洗い物は職員が行っています。利用者様が洗い物をして下さることもあります。	食事は外部事業者委託しているが、利用者の食べやすい形態、趣向、栄養量に合わせた食事の提供に配慮されている。おやつは事業所で準備するため、りんごのコンポートやクリームプリンを手作りし楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスは宅配センターで調整されています。食事摂取量と水分摂取量は毎食確認しています。食事形態は個々の利用者様の状態に合わせた食形態で提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアの声掛け、介助を行っています。本人の口腔内の状態を把握し、夜間は義歯洗浄剤で洗浄し、義歯や口腔内の清潔を保持できるよう努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の最終排泄の時間を確認して、パターンを考えトイレに誘導しています。夜間は、排泄パターンを考えパットの交換を行っています。	システム内の排泄チェック表に記録し、いつでも排泄状況を確認できる。排泄パターンや排泄状況に合わせた支援を行い、パッド等の排泄用品も利用者に合ったものが使用できるよう検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため水分は、毎日規定量を飲んで頂いています。午前中は、テレビ体操などで身体を動かしてもらっています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1週間に2回以上の入浴をして頂けるように声掛けを行っています。利用者様に時間を伝えて同意を頂いてから入浴して頂いています。	体調や希望に応じて週2回以上入浴できる。職員と1対1でプライバシーに配慮しながらゆっくり入浴できている。椅子浴や同一建物内の大浴槽も使用可能で、シャワー浴、清拭など、状態や体調に応じて一人ひとりに合った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個々のその日の体調、健康状態に合わせて休息して頂いています。昼食後には、午睡をして頂いています。夜間も良眠して頂けるように声掛けをしながらお部屋に誘導しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ミス無くす為に、毎日の薬セット確認は、必ず複数の職員が役割分担をしてチェックしています。服薬は、ご本人に提示し、日付、名前などを読み上げ誤薬を防いでいます。定期的な処方日には、必ず、一覧表を新しくして、全員に周知しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日、時間を決めてレクリエーションを行っています。内容は、安全な風船バレーなどの運動、歌唱、トランプなどを皆さんに声かけをして、できる限り全員で行える様に努めています。利用者それぞれの職歴や、家族関係を把握し、興味のある話題を提供したり、家事を一緒にしたりすることで、張り合いをもってもらっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見など季節ごとの行事を計画し、外出しています。日常的には、施設周辺を散策して、近隣の方々と会話をすることもあります。外出には必ず本人の意志を確認し、無理強いすることはありません。最近では、コロナ禍で、公共の場所への外出は、控えています。家族との外出も同様に控えています。	コロナ禍で外出機会が少なくなりましたが、花見や近隣を散歩したり、玄関先フロアでお茶を飲んだり、利用者の希望を確認してできることを行っている。事業所内でも季節に合わせて装飾し、外を感じることができるよう工夫している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身でお金を持っておられる方は、ほとんどおられず、買い物なども難しい方が増えています。特に、昨年からのコロナ禍で外出もあまり出来なかったため、現在は、積極的な支援は行っていません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や、親族の皆様から「ご本人の声を聞きたい」「直接話をしたい」という電話は、可能な限り出頂いています。今年は、コロナ禍で面会が制限されていたため、皆様に、ご家族に宛てて年賀状を書いて頂きました。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部分は、見て分かり易いように、案内板を設置したり、その場所にふさわしい飾りつけをしたりして、混乱することの無い様に工夫しています。フロアは、天窓からの自然光を活かして、明るい雰囲気になっています。壁面には、季節に合った展示物で居心地よく過ごせる配慮をしています。	天窓からやさしい光が差し込み、フロア全体が穏やかな雰囲気である。利用者で作成した季節に合った作品で装飾し、建物の中にいても外を感じることができる。温度や湿度にも気を配り、利用者と職員が心地よく過ごせる空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事や、レクリエーションを行う時のテーブルや椅子の配置とは別に、フロアの一部に畳の小上がりを設けているので、好きな時に、皆さんと離れて一人で腰掛けることができます。座席は、決まっていますが、別の席へ移動することも出来ます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室には、ご家族と相談して、以前から使用していた物や、飾り物、置物などを持って来て頂いています。寝具なども利用者個々に話を伺いながら快適に過ごせる様に整えています。	居室には写真や置物、以前から使用していた物などを飾り、利用者の好みに合わせた空間となっている。ベッドの位置や使用する寝具など、安心して眠れるように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常生活で車椅子や歩行器を使用している方はいますが、移乗や歩行時には、最小限の介助をする様にしています。テーブルや椅子の配置も移動の妨げにならないように注意し、自身の判断で、行動を起こすことができるように工夫をしています。		

2 目標達成計画

事業所名:グループホームあっとほーむ婦中

作成日: 令和3年11月8日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	新型コロナウイルス感染拡大もあり、自治会や地域住民との交流の機会が持てていない。	コロナ禍でできる交流を行っていく。	自治会の回覧板を使って施設の広報誌を回覧してもらう。ボランティアの方々には引き続き手紙を出して交流を切らさないようにする。	6ヶ月
2	30	外部医療機関への受診は家族任せになっている。	外部医療機関との連携強化の仕組みを作っていく。	情報提供がスムーズに行えるように情報提供の書式などを作成して外部医療機関との連携を円滑にすすめる仕組みを作る。	3ヶ月
3	33	入居時に重度化や終末期についての説明が口頭でしか行っていない。	重度化や終末期についての具体的な説明を行っていく。	家族へ重度化や終末期について説明する際に口頭だけではなく書面を作成し具体的に理解していただけるようにする。	3ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。